



浜松市

平成23年度 外部評価資料

資料番号	事業名	所管課
1-7	交通安全対策事業	交通政策課

事業シート3

課コード: 002106000
 担当組織: 交通政策課

作成日: 平成23年5月30日
 責任者: 角田 裕昭

基本政策	課	政策	目	事業	
計画コード	11	03	0207	01	020703

款	項	目	事項
予算コード	36	26	11 31

款	項	目	事項

事業名: 交通安全対策事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	人工 (正規職員) (単位:人)	22年度	23年度	比較
	132,617	117,839	△ 14,778		4.0	4.0	0.0
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他
	4,339	2,100			103,161		8,239

◆事業の目的

交通安全に関する知識の普及、交通安全意識の高揚を図るための教育の振興並びに交通安全広報活動の実施により、交通事故総量の削減を図り、交通事故のない社会を目指す。

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

- 事故多発交差点調査
 多面的な解析を要する交差点の事故状況や道路形状・交通状況などから事故原因を分析し、具体的な交差点及び交差点付近の改良案を作成する。
- 交通安全看板、横断旗、のぼり旗、啓発品等の配布
 交通事故防止の注意喚起や交通安全意識の高揚を図る。
- 交通事故防止対策会議の活動
 各季交通安全運動、幼児から高齢者までの段階的、体系的な交通安全教育及びシミュレーターを活用した体験型交通安全教室を推進する。また、交通事故多発交差点における事故削減対策を検討する。
- 静岡県交通安全指導員設置事業への負担金
 交通安全指導員の設置費を県と市で2分の1ずつ負担し、特に高齢者や子どもに対する安全通行・誘導等の街頭指導、広報活動、交通安全教室の開催、自転車の乗り方指導等の交通安全教育を推進する。
- 第9次浜松市交通安全計画の作成
 平成23年度から27年度までの5年間に講ずべき安全に関する施策を関係機関と協力して作成する。

◆これまでの取組状況(平成22年度に何をを行い、その結果はどうなったか)

- 市内3ヶ所の交差点について事故原因を分析し、具体的な改良案を作成し、道路部局や警察関係と対応を協議した。
- 注意喚起が必要な箇所へは、地域へ看板14枚を配布又は設置した。横断旗100本、のぼり旗400枚を増加し交通安全運動やイベントなどで掲出するとともに、反射材10,000枚、啓発品20,000個などを配布し、交通安全の啓発を実施した。
- 各季交通安全運動、幼児から高齢者までの段階的、体系的な交通安全教育を行った。また、10カ所の交通事故多発交差点の現地調査後、事故削減に向けた対策案を決定し、2箇所道路部局等による安全対策を講じることができた。
- 特に高齢者や子どもに対する安全通行・誘導等の街頭指導、広報活動、交通安全教室の開催、自転車の乗り方指導等の交通安全教育を実施した。(交通安全教室は約2,150回開催し延べ225,000人が受講した)
- 広報車による交通安全呼びかけ事業(H22年度のみで終了)
 広報車2台による啓発活動を通じて、交通事故の被害者・加害者にならないよう呼びかけを延べ175日間実施した。
- 東区ハザードマップ作成事業(H22年度のみで終了)
 人身交通事故が高い発生状況となっている東区内について、安心して歩けるためのハザードマップを12校・240枚作成した。

開始年度	終了予定年度	事業の性格分類	根拠法令等					
昭和 46 年	年	自治事務	交通安全対策基本法					
会計区分	戦略性	マニフェスト	事業の特徴	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
一般会計	重点戦略							
行革審答申	外部評価	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
	*H20は事業仕分け							

(単位:千円)

		H22	H23	H24計画	H25計画	H26計画	H23~26計
事業費	予算	132,617	117,839	117,839	117,839	117,839	471,356
	決算	124,696					0
財源内訳	国・県支出金	14,307					0
	市債						0
	その他						0
	一般財源	110,389	117,839	117,839	117,839	117,839	471,356
	*一般会計繰入						0
人件費(報酬等)							0
人件費		32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	128,000
内訳	人工(正規)	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	—
	人工(非常勤)						—
	人工(再任用)						—
年間経費(事業費+人件費)		156,696	149,839	149,839	149,839	149,839	599,356

成果指標1		人身交通事故発生件数					
種類	アウトカム(成果指標)	単位	H22	H23	H24	H25	H26
	目標	件	9400	8850	8700	8550	8400
	実績	件	9050				

成果指標2		事故多発交差点における事故減少率					
種類	アウトカム(成果指標)	単位	H22	H23	H24	H25	H26
	目標	%	30	30	30	30	30
	実績	%	45				

◆事業の成果(平成22年度末時点での目的の実現状況 ※活動ではなく状態)

交通安全に関する知識の普及、交通安全意識の高揚を図るための教育の振興並びに交通安全広報活動を実施し、死者数は27名で前年から5名減少したが人身事故件数は9,050件・負傷者数は11,768人で前年からの削減はならなかった。

◆評価(平成22年度事業の評価)

(1) 必要性: 継続

(理由)

本事業で行っている交通安全啓発活動、交通事故防止対策会議活動や啓発機材の提供などは、交通事故の削減を目指して取り組んでいる事業であり、今後も継続して取り組む必要があるため。

(2) 実施主体: 市

(理由)

市内の交通事故削減については、市と警察の綿密な協力や地域での交通安全教育及び啓発活動等も行い、地域の交通事故事情を把握しながら、交通安全協会・安全運転管理協会などの関係機関とも緊密な連携を図り、交通安全啓発活動を組織的・継続的に展開する必要があるため。

(3) 選択と集中 現状

(理由)

重要な事業であるが、交通事故発生件数の削減は、市民一人ひとりの交通安全意識が最も必要なことである。よって、資源が必ずしも効果の拡大にはつながらない。

(4) 改善: 協働

(理由)

交通事故のない社会が究極の事業成果であるため、事故削減に向けて市・警察関係だけではなく、交通事業者・企業や市民との協働による交通安全活動を通じて交通安全意識の高揚が図られるようにしていく。

今後の方向性 改善

ハード整備による交通安全上の対策は、限られた予算の範囲内で土木部にて緊急性などを考慮し優先順位を設けて実施するよう調整している。また信号機などの設置についても警察へ要望している。このため、広報啓発活動や交通安全教育を中心としたソフト面の創意工夫を図り、市民一人ひとりが交通安全意識を高め、交通事故の削減を目指していく。

◆改革・改善(評価を反映して何を見直したか)

(1) これまでに実施した改革・改善(平成23年度予算で反映したものを含む)

- 交通事故防止対策会議にて交差点事故削減対策部会を設置し、交通事故多発交差点の道路改良案や交通安全意識啓発、交通規制などの事故削減対策を検討して早期解決を目指している。
- 浜松市は外国人居住者も多いことから交通安全指導員を中心に交通安全教室を実施している。
- ケーブルテレビ(テレビはままつ)での交通安全番組の放送を実施している。
- 浜松地区高等学校生徒指導連合会交通安全部会と連携し、高校生を対象とした自転車交通ルール認知度を高める取り組みを行っている。
- 飲酒運転撲滅に向け酒類販売業者等と協力した活動を展開している。
- 静岡県警察官1名が常駐し、交通事故発生のメカニズム及び原因の調査や分析や警察関係部門との調整を迅速に行った。
- 平成23年度から交通安全シミュレーターによる体験型交通安全教室を実施していく。

(2) 今後の改革・改善計画(いつまでに何をどう見直す)

平成23年度から第9次浜松市交通安全計画(平成23年度～27年度)に基づいた交通安全実施計画を関係機関及び関係各課と協力して作成し、毎年進行管理することにより人身交通事故件数・負傷者数・死者数の削減を目指す。

論点シート

事業番号	1 - 7	事業名	交通安全対策事業
部局	都市計画部	所管課	交通政策課
H23 予算	117,839 千円	所管課	改善（協働）
H22 予算	132,617 千円	一次評価	
評価対象事業についての論点等			
<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導員設置事業への負担金はいくらか、交通安全指導員はどのような活動をしているか、実績や効果は ・啓発品 2 万個の配布やケーブルテレビでの広報の費用対効果は ・県（警察）、交通安全協会との役割分担はどうなっているか 			
評価対象事業についての二次評価			
<p>【改善（その他）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の効果を検証し、より効果的、効率的な事業のあり方を検討すべき 			